

2021/03

**PA07-00702 シリーズ**

**PA07-01602 シリーズ**

**PA07-02002 シリーズ**

(増圧比 7 倍～ 20 倍)



- このたびは、弊社のエア駆動油圧ポンプをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
- 1) この取扱説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意に関して記載してあります。
  - 2) この取扱説明書を最後までよくお読みの上、正しくご使用ください。
  - 3) お読みになった後は、すぐに利用できる場所に大切に保管してください。

2021/03

## PA07 シリーズ (7倍～20倍)

INDEX	PAGE
1. 安全性について	3
1.1. 重要伝達事項	3
1.1.1. ご使用の安全のために	3
1.1.2. 危険	3
1.1.3. 警告	3
1.2. 注意事項	3
1.2.1. 留意事項	3
1.2.2. 運転時注意事項	3
1.2.3. 点検・調整の注意事項	3-4
1.2.4. 故障時の注意事項	4
1.2.5. 分解や改造の禁止	4
2. 仕様	4
3. 吐出量特性	4
4. 外形図	5
5. 構造および部品名称	6
6. 使用に際しての注意	7-8
7. 運転	8
8. 調整	8
9. エアポンプユニット 7倍～20倍の標準モデル一覧	9-13
9.1. モデル一覧表	9
9.2. 基本形エアポンプユニットの各部機能説明	9-10
9.2.1. 全ユニットの共通機能	9-10
9.2.2. モデルによる機能と作動内容	10-13
10. 施工上の注意事項	14
11. 点検	15
11.1. 始業前点検	15
11.2. 定期点検	15
12. トラブルシューティング	15-16
13. 分解および組立	16
13.1. エアポンプ本体	16
13.2. 搭載バルブ	16
14. 消耗品リストおよびバルブ部品リスト	17-19
14.1. エアポンプ本体の消耗品リスト	17
14.2. エアポンプサブアッシー	18
14.3. エアオペレート弁部品リスト (PA07D 用搭載弁)	19
15. 油圧作動油リスト	20
16. 保証	21

## 1. 安全性について

### 1.1. 重要伝達事項

#### 1.1.1. ご使用の安全のために

- ①本製品は、当社の取扱説明書をよく読み、製品を十分に理解して、危険性を熟知したオペレーターまたは、技術者により運転・操作・保全を行ってください。
- ②本製品を納入稼働後、貴社にて改造・変更を行って、それに起因した不具合・事故が発生した場合は、弊社のPL補償の対象となりませんのでご了承ください。
- ③本書に記載されている安全注意事項は、身体や機械の損傷レベルにより、次の3レベルに分けて記載してあります。危険度の高い安全注意事項には、特に気をつけて作業を行ってください。



**注意**：当該記載事項を厳守しないと機械及び身体に損傷を招く恐れがあるもの



**警告**：取扱いを誤った場合に、重傷の人身事故を負う可能性がある場合



**危険**：当該記載事項を厳守しないと死亡事故を招く恐れがあるもの

#### 1.1.2. 危険



**危険**

- ①アルコールまたは薬物を飲んで操作、または作業をしないでください。判断力の低下による誤操作を引き起こし危険です。
- ②運転中に可動するものに身体、またはその一部を接触させないでください。けがをする恐れがあります。
- ③本製品の上に乗らないでください。転倒、落下の危険性があります。

#### 1.1.3. 警告



**警告**

- ①本製品の操作・点検・整備・修理は、本製品の構造と動作を熟知した人が行ってください。
- ②この取扱説明書はいつでも使用できるように、大切に保管してご活用ください。
- ③点検・整備・修理には、エアおよび通電を切ってから行ってください。

## 1.2. 注意事項

### 1.2.1. 留意事項

取扱説明書の点検事項が実施されていること。

### 1.2.2. 運転時注意事項

- ①点検・調整等が完了して、周囲の安全が確認されてから運転してください。
- ②作動中のポンプには触れないでください。エア排気口からは圧縮エアが排出されますので目、耳、顔などを近づけないでください。排気音や排気圧力により、けがをする場合があります。

### 1.2.3. 点検・調整の注意事項

- ①機械・装置の点検整備は、非駆動物体の落下防止処置や暴走防止処置等がなされていることを確認してから行ってください。
- ②機器を外すときは、上記の安全処置がとられていることの確認を行い、油圧源、エア源および電源を遮断して、かつ油圧回路中に残圧が無くなったことを確認してから行ってください。
- ③運転停止直後の機器の取外しは、機器の温度が上がっている場合がありますので、温度が下がってから行ってください。
- ④機械・装置を再起動する場合は、ボルトの締め忘れや各部の異常が無いか確認した後に行ってください

⑤点検・調整等の作業は、十分な知識と経験を持った人が取扱ってください。

### 1.2.4. 故障時の注意事項

- ①供給エアと通電中の電気は切り、十分安全を確認してから故障の点検を行ってください。
- ②点検・調査員は、確実に危険を回避できる状況で、作業に着手してください。

### 1.2.5. 分解や改造の禁止

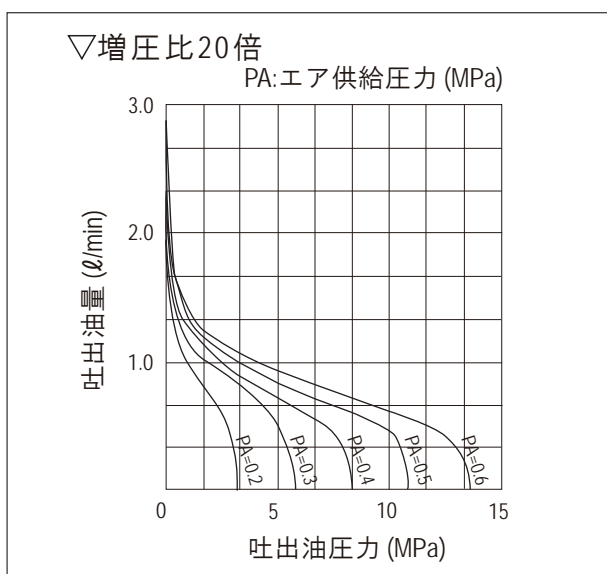
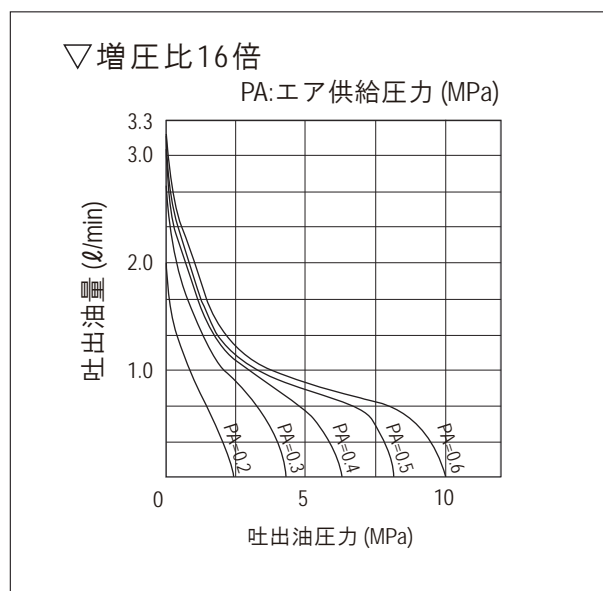
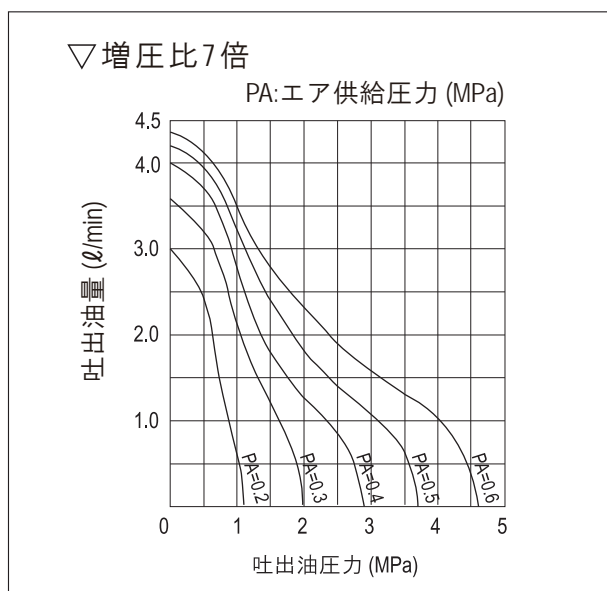
分解や改造をされますと危険なばかりではなく、保証期間内であっても製品保証の対象外となりますので、絶対にしないでください。

## 2. 仕様

搭載ポンプ 型式	増圧比	供給エア圧力	油圧力 (MPa)	エア消費量 (Nℓ/min)	無負荷出量 (ℓ/min)	使用温度 範囲 (°C)	質量 (kg)
AH714E	20倍	0.2 ~ 0.6	3.2 ~ 13.5	350	2.87	0 ~ 60	5
AH716E	16倍		2.5 ~ 10.0		3.20		
AH724E	7倍		1.1 ~ 4.6		4.35		

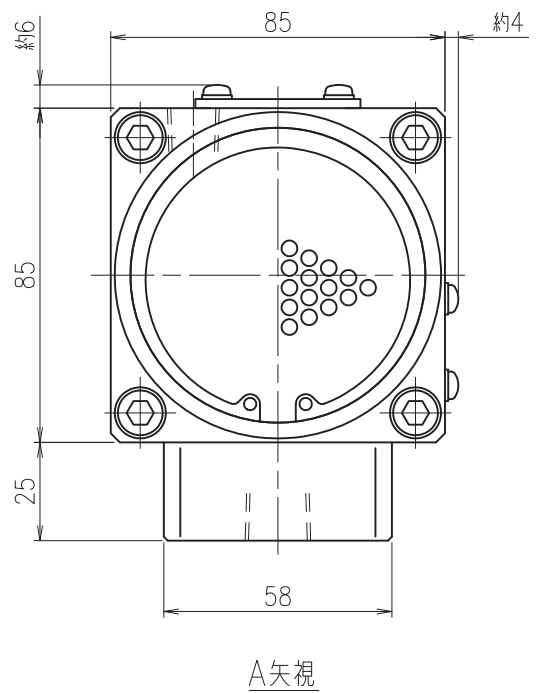
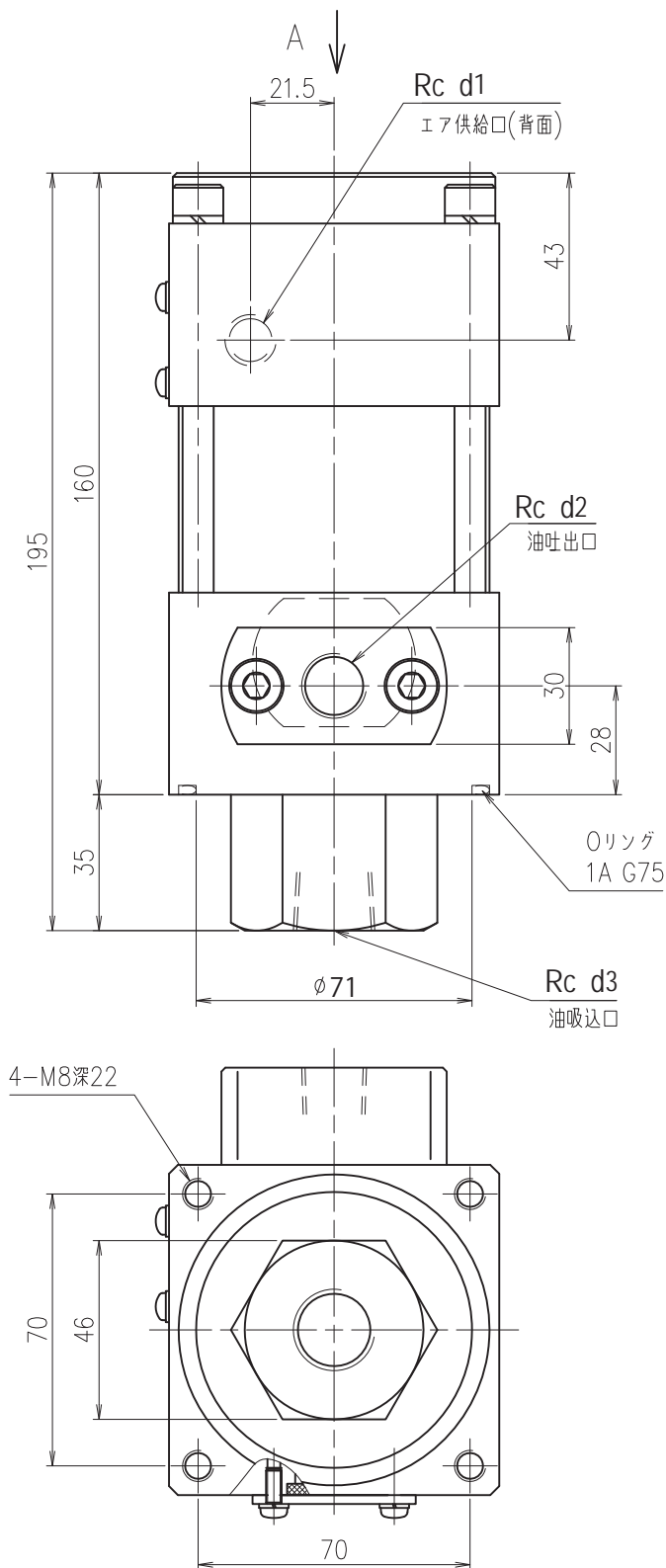
注1)吐出圧力，吐出油量は、3. 吐出量特性のポンプ性能曲線を参照ください。

## 3. 吐出量特性



#### 4. 外形図

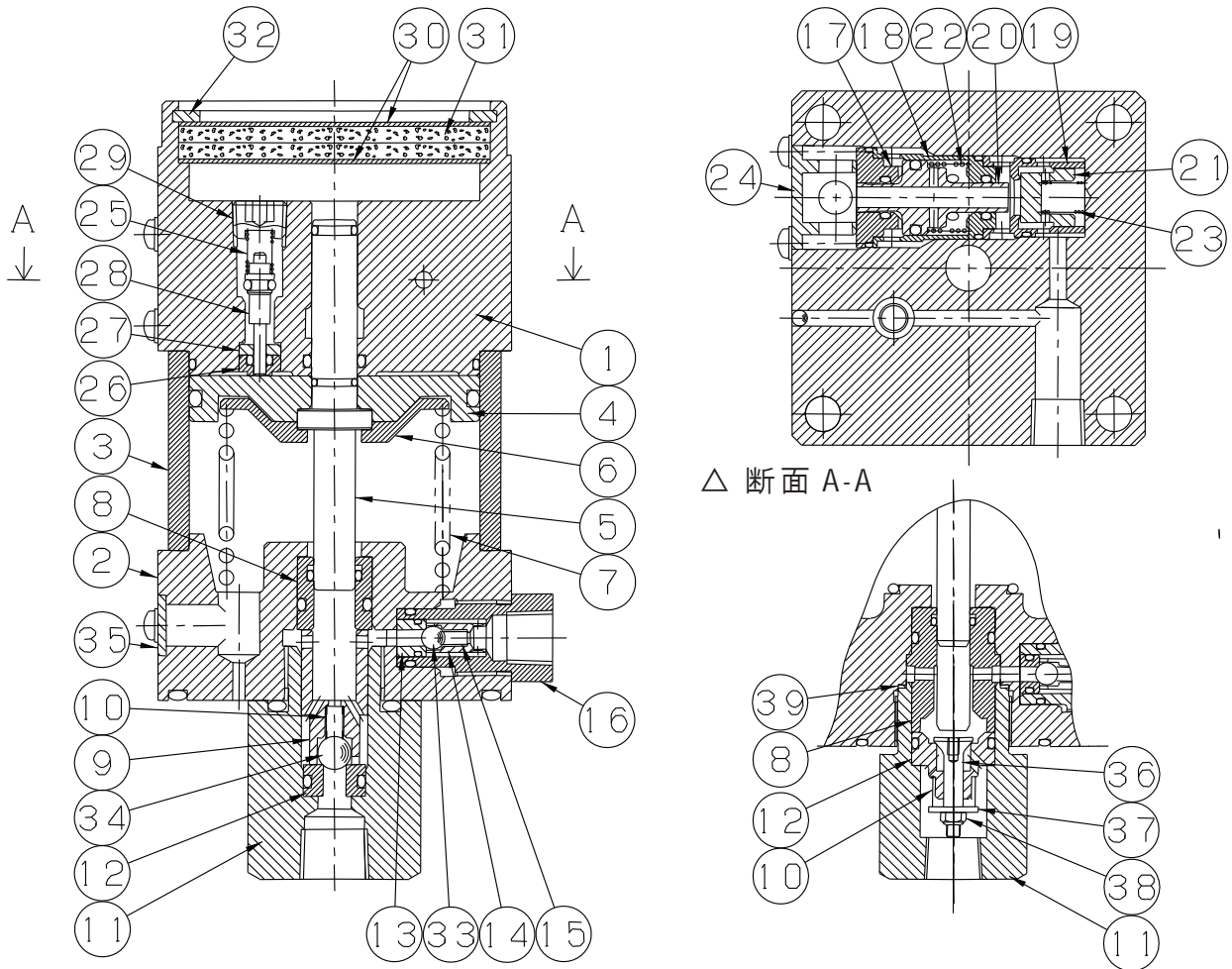
▽ AH714E ・ AH716E ・ AH724E



▽ 搭載ポンプのポート寸法

型式	寸法 (mm)		
	d1	d2	d3
AH714E		1/4	1/2
AH716E	1/4	1/4	1/2
AH724E		3/8	

## 5. 構造および部品名称



△ AH714 ・ AH716 ・ AH724

### ▽ 部品表

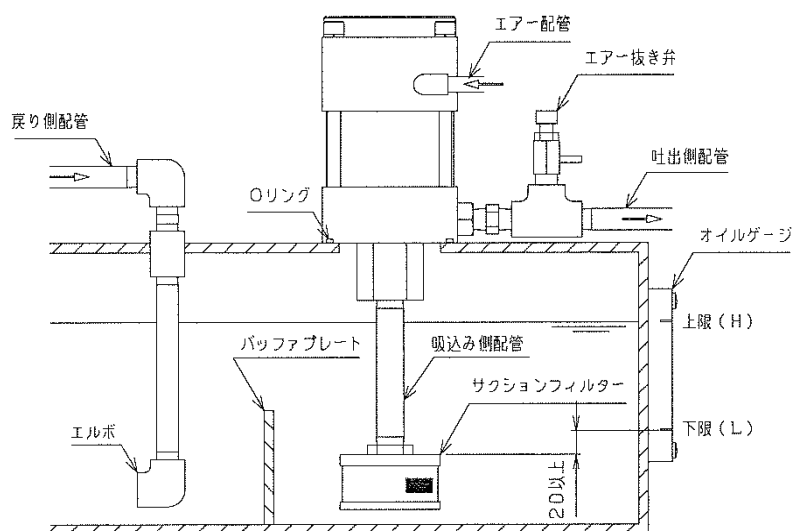
品番	部品名称	数量	品番	部品名称	数量	品番	部品名称	数量
1	ヘッドキャップ	1	14	吐出弁受ケ	1	27	パイロット弁ガイドB	1
2	油圧ヘッド	1	15	吐出弁バネ	1	28	エアパイロット弁	1
3	シリンダチューブ	1	16	吐出弁継手	1	29	プラグ	1
4	ピストン	1	17	スプールガイドB	1	30	消音パッド押エ	1
5	ピストンロッド	1	18	スプールガイドA	1	31	フェルト	1
6	プランジャ押エ	1	19	ポペット弁ガイド	1	32	穴用C型止メ輪	1
7	ピストン戻シバネ	1	20	スプール	1	33	鋼球	1
8	ピストンロッドガイド	1	21	ポペット弁	1	34	鋼球	1
9	吸込弁受	1	22	スプール戻シバネ	1	35	焼結フィルタ	1
10	吸込弁バネ	1	23	逆止弁バネ	1	36	吸込み弁	1
11	吸込弁継手	1	24	スプールガイド押エ	1	37	スペーサー	1
12	吸込弁座	1	25	エアパイロット弁バネ	1	38	Uナット	1
13	吐出弁座	1	26	パイロット弁ガイドA	1	39	銅座金	1



## 6. ご使用に際しての注意

### ⚠ 注意

- ①ポンプ本体は屋内用です。故障の原因になるので、屋外ではご使用にならないでください。
- ②取り付け姿勢は垂直方向で取り付けてください。
- ③吸込みポート側配管には、サクシオンフィルタ(100メッシュ以上)を必ず取り付けてください。
- ④(吸込みポート側配管のサクシオンパイプは、内面にサビ、スケールがない厚肉パイプ(STPG Sch80)をご使用ください。
- ⑤サクシオンフィルタおよびサクシオンパイプを取り付ける際には、ねじ部にシールテープ等を使用してエアの混入を防止してください。
- ⑥吐出ポート側への配管は、エナパック標準品を推奨いたします。お客様で配管材をご用意される場合は、圧力、流量等の使用条件に耐え得る製品を選定ご使用ください。
- ⑦吐出ポート側配管には、エア抜きバルブを設け、ポンプおよび配管内のエア抜きが容易に行えるようにしてください。なおバルブ搭載型の弊社標準ユニットをご使用の場合は、バルブブロック内にエア抜きバルブが内蔵されております。
- ⑧吐出ポート側配管には、ポンプ吐出圧力が確認できる耐振形油圧計を必ず設けてください。なお弊社標準ユニットをご使用の場合は、耐振形油圧計がすでに組み込まれています。
- ⑨エア供給ポートへの配管には、必ずエアフィルタを設けてください。ドレインや水分を多量に含んだエアは、内部の潤滑性の低下、エア排気効率の低下、排気による断熱膨張による固化および凍結による作動不良の原因になります。なお、ルブリケータは不要です。供給油がエア排気口に混入して、排気効率の低下や故障の原因になります。また弊社標準ユニットをご使用の場合には、エアフィルタおよび圧力計付きレギュレータがすでに組み込まれております。
- ⑩お客様でご用意される場合のエア機器関係は、ポンプの空気消費量(最大 350N/L)を考慮し、十分な流量のエア機器を選定してください。
- ⑪オイルタンク内に組み込まれる戻りパイプは、必ず油面レベル以下となるような長さとし、戻り油がサクシオンフィルタに直接入らない向きに取り付けてください。ポンプの吸込み不良の原因になります。
- ⑫オイルの戻りパイプとサクシオンフィルタが非常に近い位置に設置される場合は、戻りパイプとサクシオンフィルタの間にエア巻き込み防止用のバッファプレートを設置してください。
- ⑬ポンプの吸込みポートの位置(高さ)と油面(下限)との高低差は出来る限り小さくしてください。



△ポンプユニット組込部品名称

- ⑭サクションフィルタの位置はオイルゲージ下面の液面より、20mm 以上下方にしてください。
- ⑮ポンプが常に停止しないような連続運転(循環回路・オープン回路)ではご使用にならないでください。必ず回路設計はクローズド回路を構成してご使用ください。ポンプの構造上、連続運転は内部パッキンの摩耗によりポンプの寿命が著しく短くなる場合があります。

## 7. 運転



### 注意

下記の場合は必ずエア抜きを行ってください。

- a. エアポンプを初めて作動させる場合
- b. オイルタンク内の油面低下により、サクションフィルタからエアを吸い込んだ場合
- c. 長期間(1ヶ月以上)ポンプを作動させていない場合
- d. 油圧機器のメンテナンス後

### エア抜きの手順

- ①標準ユニットの場合は、専用エア抜き弁を六角レンチにて1回転程(CCW方向)緩めてください。
- ②エアレギュレータを調整して、エアポンプへの供給圧力を0.2MPa程度にセットしポンプを作動させてください。
- ③おおよそ30秒程度の空運転作動をすることにより、エアポンプ内のエアを抜くことができます。
- ④油吐出口と油圧シリンダ間のエアは、シリンダの根元で別途エア抜きを行ってください。
- ⑤エア抜き完了後、エア抜き弁を締めてください。この時エアポンプのサイクルは最終到達圧力で保持停止している状態が正常です。

## 8. 調整



### 注意

- ①エアレギュレータを徐々に調整しエアポンプへの供給エア圧を上げてください。
- ②吐出側配管の油圧計で油圧力の上昇を確認しながら、所定の油圧力に設定してください。
  - a. **油圧力を上げる場合**  
ポンプへの供給エア圧力を徐々に上げていく。
  - b. **油圧力を下げる場合**
    - b.1. エアレギュレータを調整して設定圧力をいったん“ゼロ”まで下げてください。
    - b.2. エアポンプの吐出側の油圧力を回路中の切換バルブで切換えるなどで“ゼロ”にしてください。
    - b.3. 切換バルブを元の状態に戻した後、エアレギュレータを再調整して、所定の圧力に設定してください。



## 9. エアポンプユニット 7 倍～ 20 倍の標準モデル一覧

### 9.1. モデル一覧表

機 能	型 式	増圧比	動 作
単動シリンダ用 (エア手動弁式) ※1 エア電磁弁も可能	PA07D-00702 ※1 PA07D-01602 ※1 PA07D-02002 ※1	7 倍 16 倍 20 倍	エア手動弁のスナップを ON/OFF することで、ポンプが作動し、ON- 昇圧、OFF- 開放で油が戻ります。
複動シリンダ用 (手動式油圧 4 方弁搭載)	PA07M4-00702 PA07M4-01602 PA07M4-02002	7 倍 16 倍 20 倍	エア手動弁のスナップを ON にした状態で、油圧 4 方切換弁により、複動シリンダを手動切換えにより作動できます。
複動シリンダ用 (電磁式油圧弁搭載) 電圧選定は型式末尾記号 ※2 (A,D,Cを追加) A:AC100V D:200V C:DC24V	PA07S2-00702 ※2 PA07S2-01602 ※2 PA07S2-02002 ※2	7 倍 16 倍 20 倍	エア手動弁のスナップを ON にした状態で、油圧電磁弁を通電、非通電により、自動回路で複動シリンダを作動できます。
リモート用 (外部回路別置型)	PA07M1-00702 PA07M1-01602 PA07M1-02002	7 倍 16 倍 20 倍	ポンプと油圧切換弁(外部設置)を離れた箇所で操作する場合に元ポンプとして使用できます。

- a. エア手動弁およびエアレギュレータは、標準でポンプユニットに組込まれています。  
b. エアおよび油圧の電磁弁に供給する電圧が正しいか必ず確認してください。

### 9.2. 基本形エアポンプユニットの各部機能説明

#### 9.2.1 全ユニットの共通機能

##### ①油タンク

ポンプユニットの作動油を貯蔵する鋼板製タンクです。油面は側面の油面計で確認することができます。上限レベルで有効使用容量 2.0 L、下限レベルで残油量 0.5 L です。ご使用前または、定期的に油量を確認してください。タンクには、床置設置用の取り付け穴と、壁掛け用取り付け穴がありますので、設置場所に合わせて選択していただけます。

##### ②注油口

タンク上面に橙色の注油口キャップと予備タンクポート用プラグキャップ G3/8 が付属しています。注油はどちらかのプラグを外して、油を規定レベルまで入れてください。注油後は、必ず両方のプラグを完全に閉めてください。取り外したままでご使用になられると、タンク内の油に異物やダストが混入して、ポンプの故障の原因になります。

##### ③ドレーン口

タンク正面の下側(ブランドラベル側)にタンク内の油を排出するために NPT1/4 のドレーンプラグがあります。作動油の交換やメンテナンスを実施する際にドレーン口から油を抜くことができます。

#### ④エア付属機器

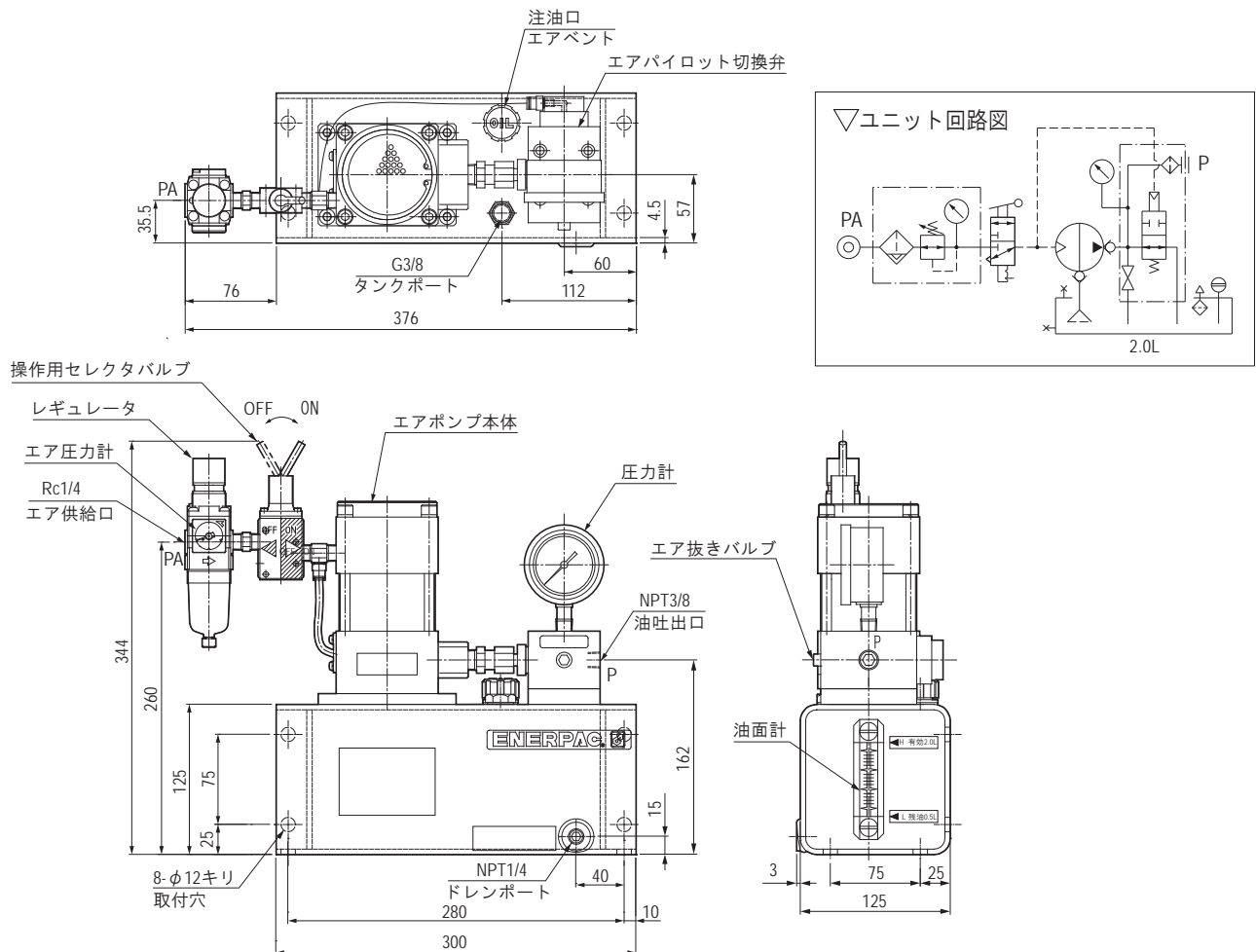
エアポンプには、標準で簡易的なミストおよび水分除去用のフィルタレギュレータと元エア供給用の手動切換弁(スナップ式)が組込まれています。エア接続口の口径は Rc1/4 で、接続配管また接続チューブの内径はφ6mm 以上で行ってください。

### 9.2.2. モデルによる機能と作動内容

#### ①単動シリンダ用ユニット(エアオペレート弁 ON/OFF)

製品型式	PA07D-00702 PA07D-01602 PA07D-02002
操 作	
加 圧	操作セクタバルブを“ON”にするとエアポンプに圧縮エアが供給されてポンプが作動します。同時にエアパイロット切換弁も自動的に“ON”になり、吐出口から油が出ます。単動油圧シリンダが接続されていれば、単動油圧シリンダは作動・加圧されます。セクタバルブを“ON”にしたままで自動的にラインの油圧力を保持し続けます。
開 放	セクタバルブを“OFF”にすると回路内の全てのエアは開放されて、油圧力は“ゼロ”となり、エアパイロット切換弁を通して回路内の油はタンクに戻ります。単動油圧シリンダが接続されていれば、この操作で圧力開放されてシリンダは戻ります。

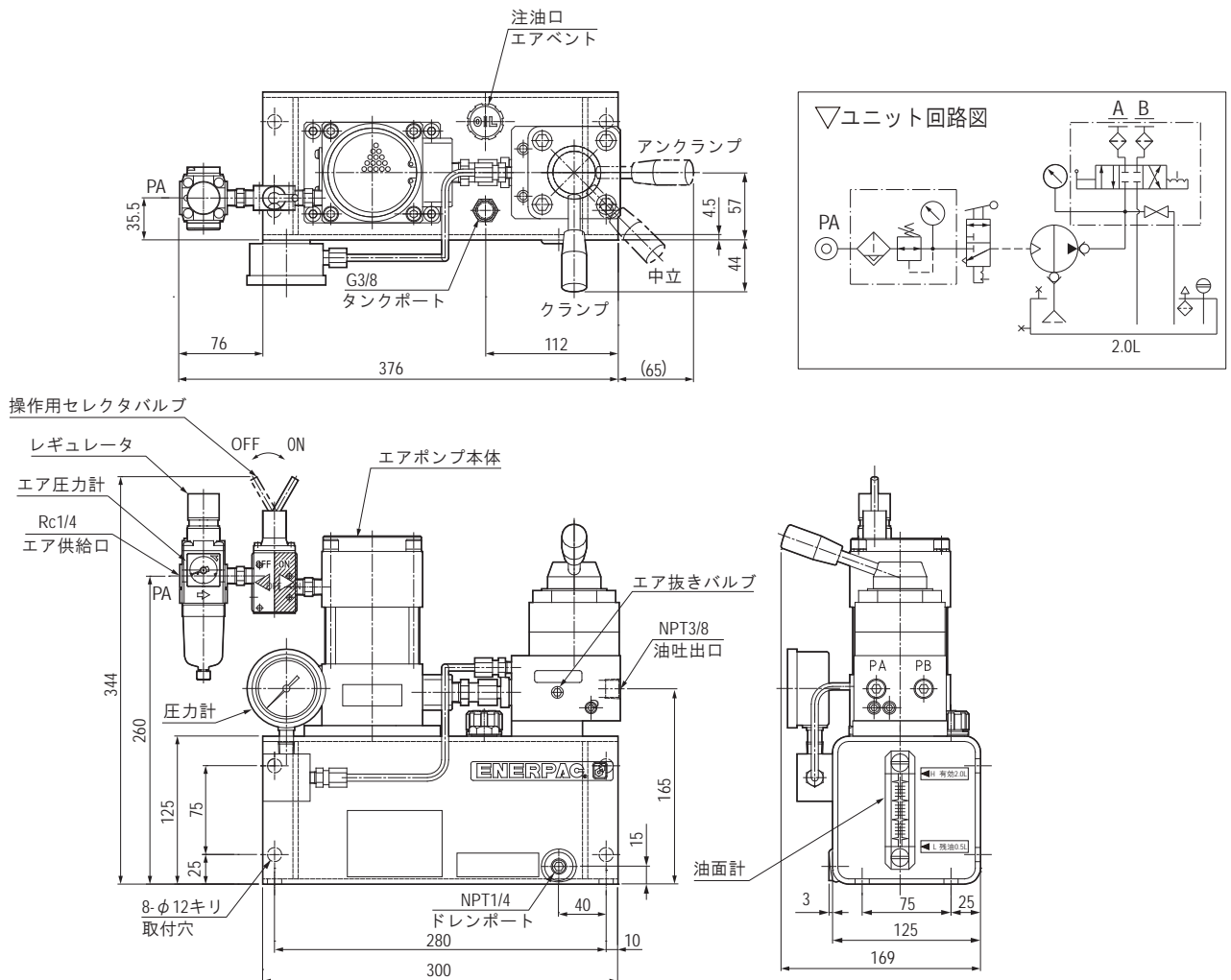
※ エアセクタバルブをエア電磁3方弁にすると、オール自動回路が構成できます。



②複動シリンダ用ユニット(手動式油圧4方弁搭載)

製品型式	PA07M4-00702 PA07M4-01602 PA07M4-02002
操 作	
A ポート	操作セクタバルブを"ON"にするとエアポンプに圧縮エアが供給されてポンプが作動します。そのとき油圧4方弁をクランプ側に切換えると“A”ポートから油が吐出されます。複動シリンダのクランプポートに接続されていれば、油圧シリンダはクランプの作動・加圧・保持をします。
中 立	油圧4方弁をクランプまたアークランプ位置で圧力保持ができます。この中立位置では圧力保持はできません。 ※中立は切換え過渡期のポジションになり通常は通過位置です。
B ポート	Aポート作動と同様に油圧4方弁をアークランプ側に切換えると“B”ポートから油が吐出されます。複動シリンダのアークランプポートに接続されていれば、油圧シリンダはアークランプの作動・加圧・保持をします。そのときAポートの油は油圧4方弁を通りタンクに戻ります。

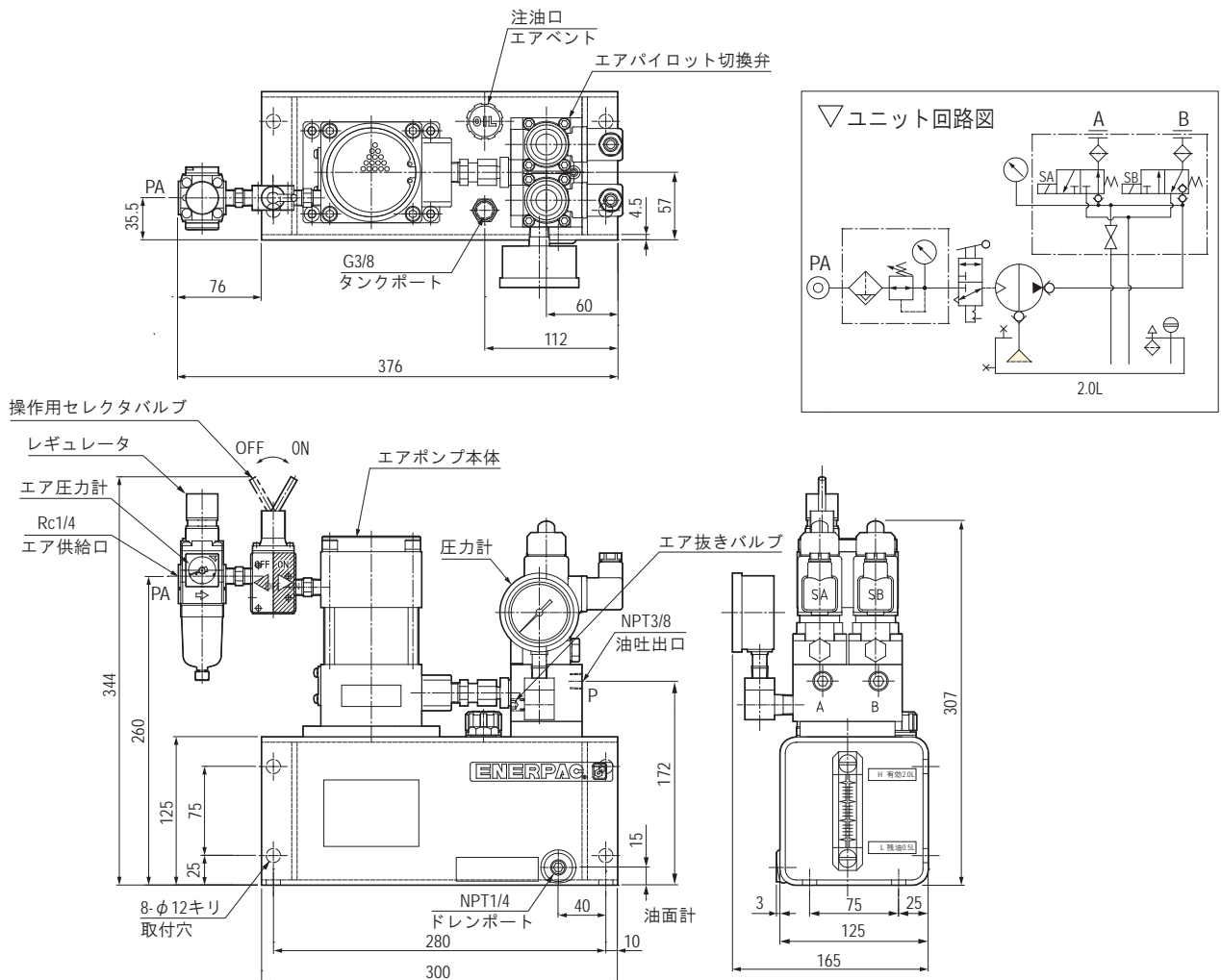
※ 保持中に中立位置にバルブを切換えると A または B ポートの圧力が”ゼロ“になり危険です。



③複動シリンダ用ユニット(電磁式油圧弁搭載)

製品型式	PA07S2-00702※ PA07S2-01602※ PA07S2-02002※ 型式末尾※は電磁弁電圧を示します。 A : AC100V D : AC200V C : DC24V
操 作	
A ポート	操作セクタバルブを"ON"にするとエアポンプに圧縮エアが供給されてポンプが作動します。そのとき油圧切換弁の両ソレノイドを"非通電"のバルブポジションでAポートから油が吐出され、複動シリンダのクランプポートに接続されていれば、油圧シリンダはクランプの作動・加圧・保持をします。
保 持	AまたはBのバルブ切換え位置を保持すると、AまたはBポートの油圧も保持します。クランプ、アンクランプポートは、AまたはBのどちらでも使用できます。
B ポート	油圧切換弁の両ソレノイドを"通電"のバルブポジションでBポートから油が吐出され、複動シリンダのアンクランプポートに接続されていれば、油圧シリンダはアンクランプ作動・加圧・保持をします。AポートとBポートを逆に接続しても、どちらでも使用できます。

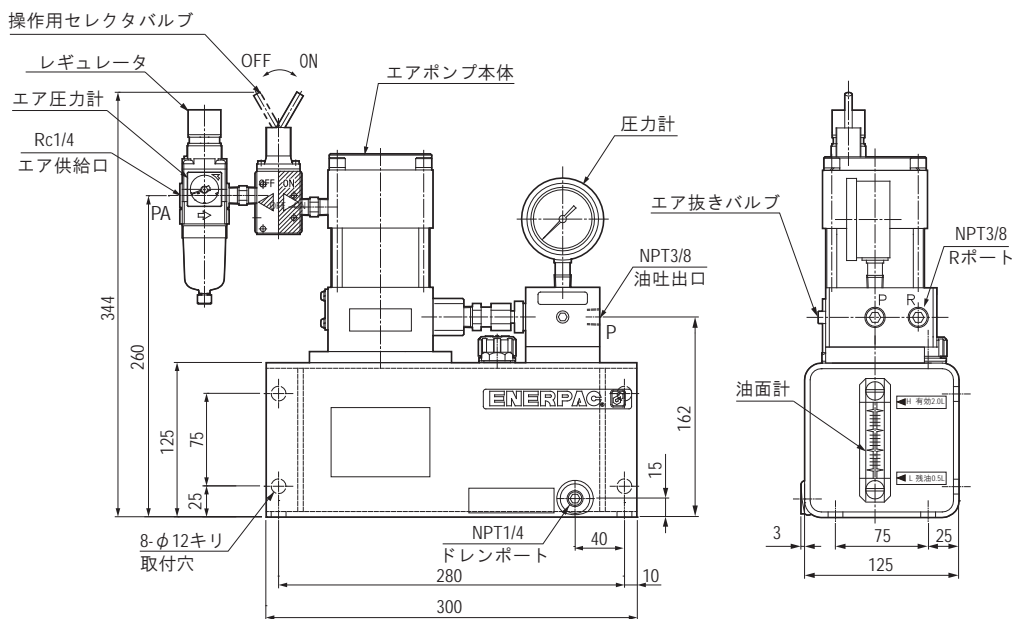
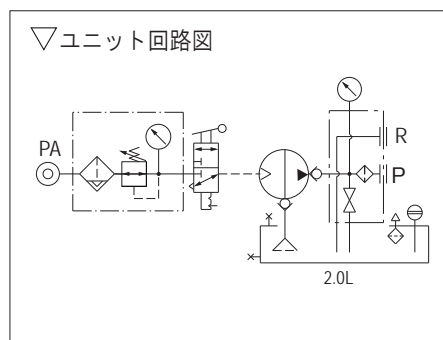
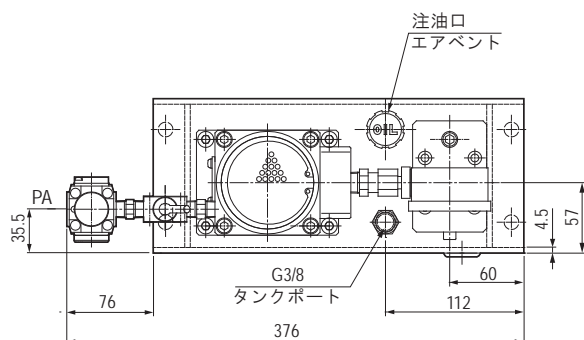
※ 電磁弁を1個搭載する単動シリンダ用も対応可能です。(メクラプレート WVPE-1が必要です。)



④リモート用(外部回路別置型)

製品型式	PA07M1-00702 PA07M1-01602 PA07M1-02002
操 作	
加 圧	エアセクタバルブを“ON”にするとエアポンプに圧縮エアが供給されてポンプが作動します。吐出された油は、ポンプ搭載ブロックのPポートから吐出されます。またこのモデルは、外部に油圧切換弁を設置して回路を構成するユニットで、別途別置バルブが必要になります。
開 放	油圧の開放は別置型の外部油圧切換弁が必要となりますが、複数のシリンダ、単動シリンダ、複動シリンダ等さまざまな回路に対応構成が可能なユニットです。

※ ポンプユニット単体でシリンダを作動させることはできませんのでご注意ください。



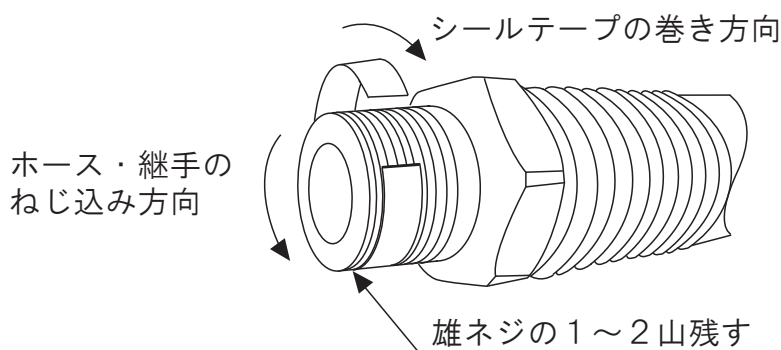
## 10. 施工上の注意事項

### 注意

- ①作動油の種類をご確認ください。
- ②作動油は、必ず鉱物系作動油をご使用ください。難燃性作動油等の流体を使用すると、ポンプの故障の原因になります。
- ③作動油は必ず添付の「推奨作動油リスト」に従って適正な作動油をご使用ください。  
粘度 ISO VG32 相当品 アニリン点 100℃以上

### 注意：ご使用される作動油は必ずシール材(ニトリルゴム)に悪影響を及ぼさないものを選定してください。

- ④清浄な空気をご使用ください。  
圧縮空気が化学薬品、有機溶剤を含有する合成油、塩分、腐食性ガス等を含んでいる場合は、部品の破損や作動不良の原因となりますので使用しないでください。また、ドレーンや水分を多量に含む場合も作動不良の原因となりますのでエアフィルタを設置してください。
- ⑤配管前の処置  
配管・管継手・その他油通路穴等は、十分にフラッシングを行い清浄な状態でご使用ください。
- ⑥シールテープの巻き方  
シールテープを使用される際は、ねじ部先端を1～2山残して巻いてください。また、配管施工時はシールテープ等の異物が機器内に詰まらないように注意して、適正な施工を行ってください。シールテープの切れ端が油漏れや作動不良の原因になる場合があります。



- ⑦継手の取付け  
エア供給口(Rc1/4)への継手のねじ込みトルクは、8～10N・mで締め付けてください。油圧継手 NPT3/8 の口径のねじ込みトルクは 78～98N・mで締め付けてください。過大なトルクでねじ込むと、ねじ部破損の原因になります。
- ⑧取付けボルトの締め付け  
取付けボルト M8 の締め付けトルクは、20N・mです。



## 11. 点検

### 注意

#### 11.1. 始業前点検

- ① オイルゲージ内の油量点検をしてください。
  - a. 油面が下限より上方にあること。
- ② エアポンプの吐出圧力を確認してください。
  - a. 油圧力が設定圧力にあること。
- ③ 回路中の油漏れを点検してください。
  - a. 設定圧力保持中にエアポンプが圧力バランスして停止していること。“ポン ポン”と音がして作動している場合は、回路内に油漏れ箇所がありますので、適切な処置を実施後、安全が確認されてから装置を稼動してください。

#### 11.2. 定期点検

- ① エアレギュレータの圧力設定が適切か確認してください。
- ② エアフィルタのドレーン除去とエレメントの目詰まりの清掃を行ってください。
- ③ 油タンクの総油量の確認を行い、上限レベルまで油を補充してください
- ④ 配管・取付けボルト等に緩みがないか定期的に増し締め点検を行ってください。
- ⑤ 作動油の劣化や汚れがないか確認してください。
  - a. おおよその交換時期の目安は、ポンプサイクル稼動時間で 300 時間または 6 ヶ月に一度程度です。オイルは使用していない状態でも、空気に触れていると酸化して、潤滑性や成分特性が変化してしまうと、機器の寿命に影響を与えることがあります。
- ⑥ 製品を保管する場合は、直射日光・水分等から保護して冷暗な場所に管理してください。

## 12. トラブルシューティング

トラブルの現象により、原因を確認して対策を行ってください。なお、以下の対策を行っても現象が解決されない場合は、オーバーホールや部品交換などの修理が必要ですので、販売店または弊社のカスタマサービスセンターにご連絡ください。

### ① ポンプは作動するが、油を吐出しない

原因	対策と処置
1. 油タンク内の油量不足	作動油を補充してください。
2. ポンプのエア抜きが不十分	エア抜きを行ってください。
3. 油タンク内の作動油に気泡、白濁がある。	作動油のレベルを確認後、気泡がなくなるまで待つ。場合によっては作動油の入れ替え実施をしてください。
4. 周囲温度の低下による油の粘度上昇	油を温めて粘度を適正に保ってください。
5. 吸込側配管の緩み	吸込側配管の緩み点検と増し締めしてください。
6. 吸込フィルタの目詰まり	吸込フィルタを清掃してください。

### ② 油圧は上昇するが、ポンプが停止しない

原因	対策と処置
1. エア抜き弁が開いている。	エア抜き弁を閉じてください。
2. エア供給不良またはエア漏れ	エア供給口の配管を外し、エアが十分供給されているか確認してください。
3. 配管またはアクチュエータの油漏れ。	配管、バルブまたはアクチュエータの油漏れを点検して対処してください。
4. ポンプ内部のシート部の損傷	シート部の交換が必要なので修理依頼をしてください。
5. ピストンロッド部の O リングの損傷	リペーパーーツキットでパッキン交換してください。

③ポンプが作動しない、あるいは作動サイクルが遅い

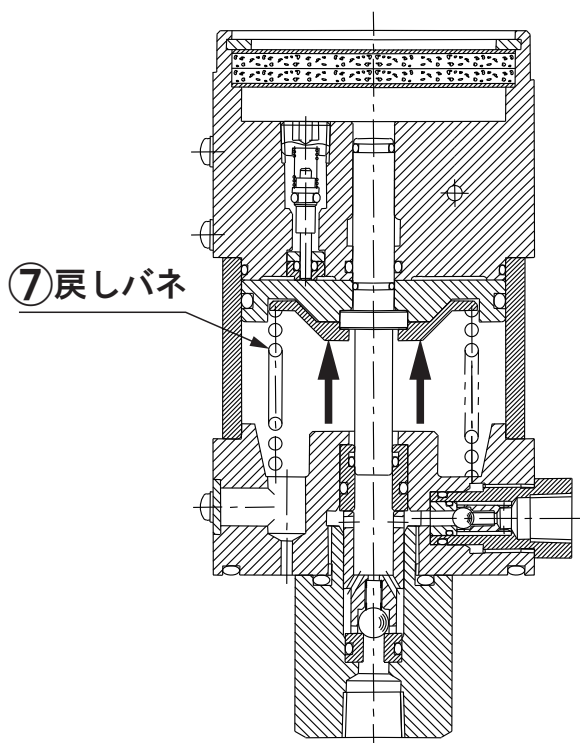
原因	対策と処置
1. 油圧バルブの故障	エア抜き弁を緩めると作動する場合は、油圧切換弁の点検を行ってください。
2. エア圧力の低下	エア圧力の設定が適正か確認してください。
3. エア供給不良またはエア漏れ	エア供給口の配管を外し、エアが十分供給されているか確認してください。
4. ポンプのエアフィルタの目詰まり	フィルタの清掃を行ってください。
5. 吸込みフィルタの目詰まり	油タンク内の吸込みフィルタを清掃してください。

13. 分解および組立

**警告**

13.1. エアポンプ本体

- ①ポンプ本体は4本の六角穴付ボルトで連結されており、内部には**⑦戻しバネ**が組み込まれています。(下記ポンプ図参照)
- ②4本のボルトを緩めて分解する際は、内部バネの飛び出し防止策を講じてください。そのまま外すと、勢いよく部品が飛び出し顔や手などにぶつかり、けがをする恐れがあり大変危険です。十分に安全と構造を確認してから作業を行ってください。
- ③分解・組立の際は5. **構造および部品名称**(6ページ)を参照してください。
- ④組立の際は、Oリングおよび摺動面には適量グリースを塗布してください。



**警告**

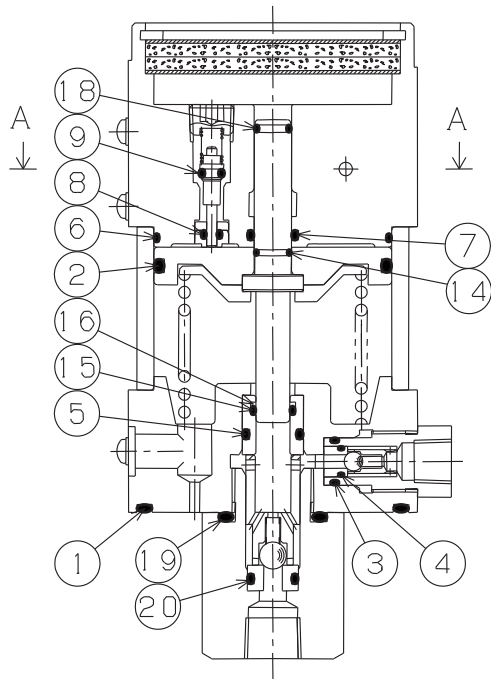
↑ 矢印方向に圧縮された**⑦戻しバネ**の力が働いているため、分解時にバネが飛び出さないように注意してください。

13.2. 搭載バルブ

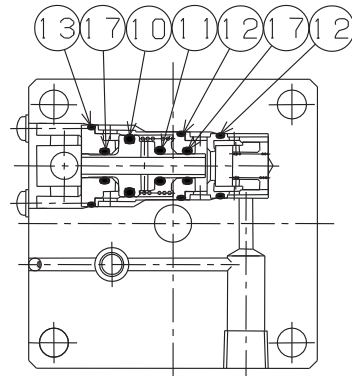
エアポンプユニットとは別途に取扱説明書が用意されておりますので、弊社までお問い合わせください。その際、ユニットにより搭載バルブが異なりますので、ご使用されている製品型式をお申し付けください。

## 14. 消耗品リストおよびバルブ部品リスト

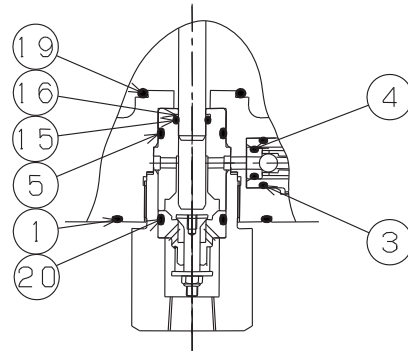
### 14.1. エアポンプ本体の消耗品リスト



△ AH7□□



断面 A - A



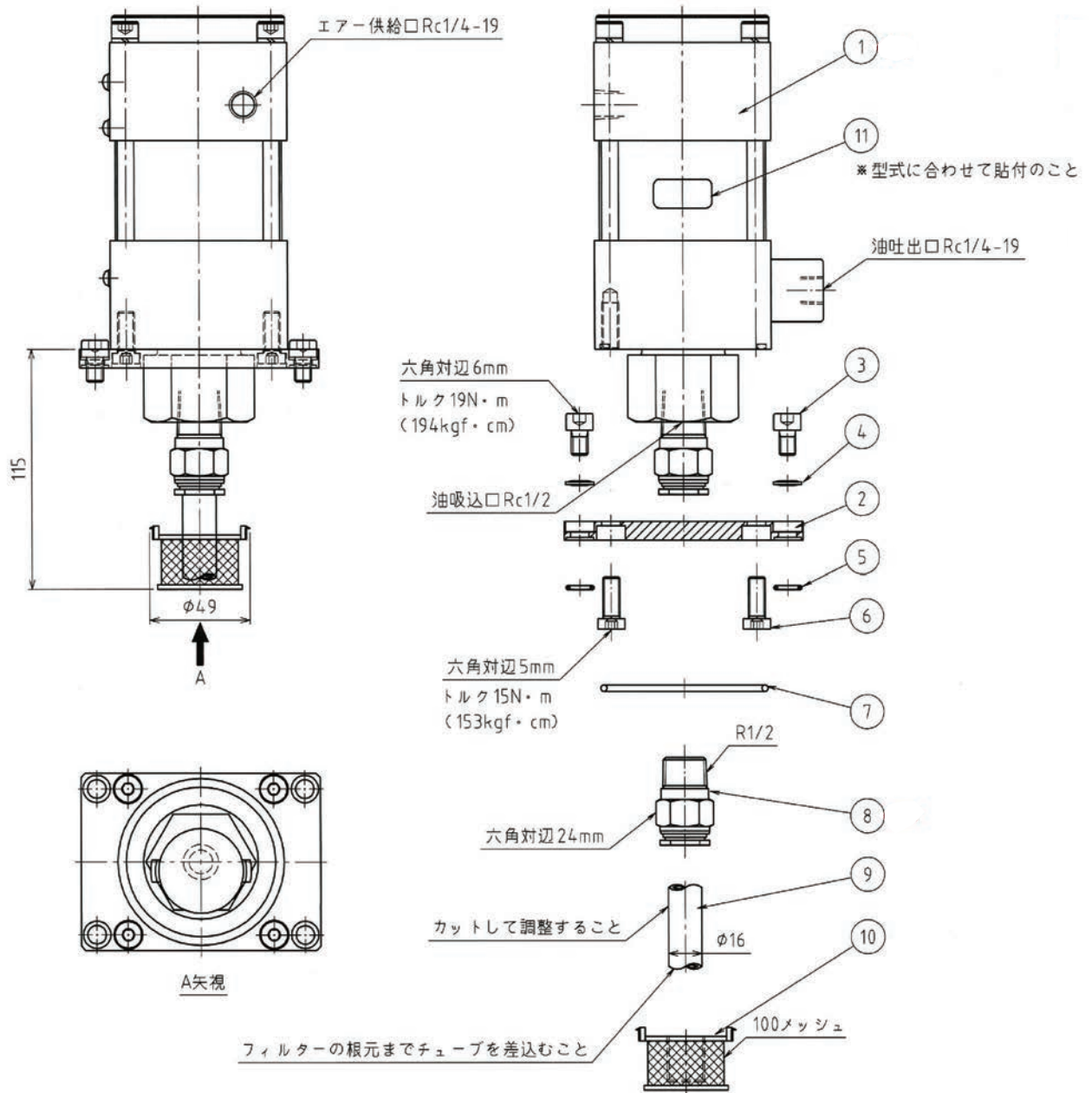
△ AH714・AH716・AH724

#### ▽ パッキンキットリスト AH714(20倍) AH716(16倍) AH724(7倍)

品番	品名	パッキンキット型式 ※			数量
		AH714EK	AH716EK	AH724EK	
1	Oリング		1A G75		1
2	Oリング		1A G65		1
3	Oリング		1B P18		1
4	Oリング		1B P10A		1
5	Oリング		1B G25		1
6	Oリング		1A S67		1
7	Oリング		1A P11		1
8	Oリング		1A P3		1
9	Oリング		1B P4		1
10	Oリング		1A P14		1
11	Oリング		1A S5		1
12	Oリング		1A S16		2
13	Oリング		1A S22		1
14	Oリング		1A S9		1
15	Oリング	PS-14(ペンタシール)	PS-16(ペンタシール)	PS-24(ペンタシール)	1
16	BKリング	T2 P14	T2 P16	—	1
17	Oリング		1A P7		2
18	Oリング		1A P7		1
19	Oリング		1B P26		1
20	Oリング		1B G25		1

※ パッキンキットでしか供給できません。

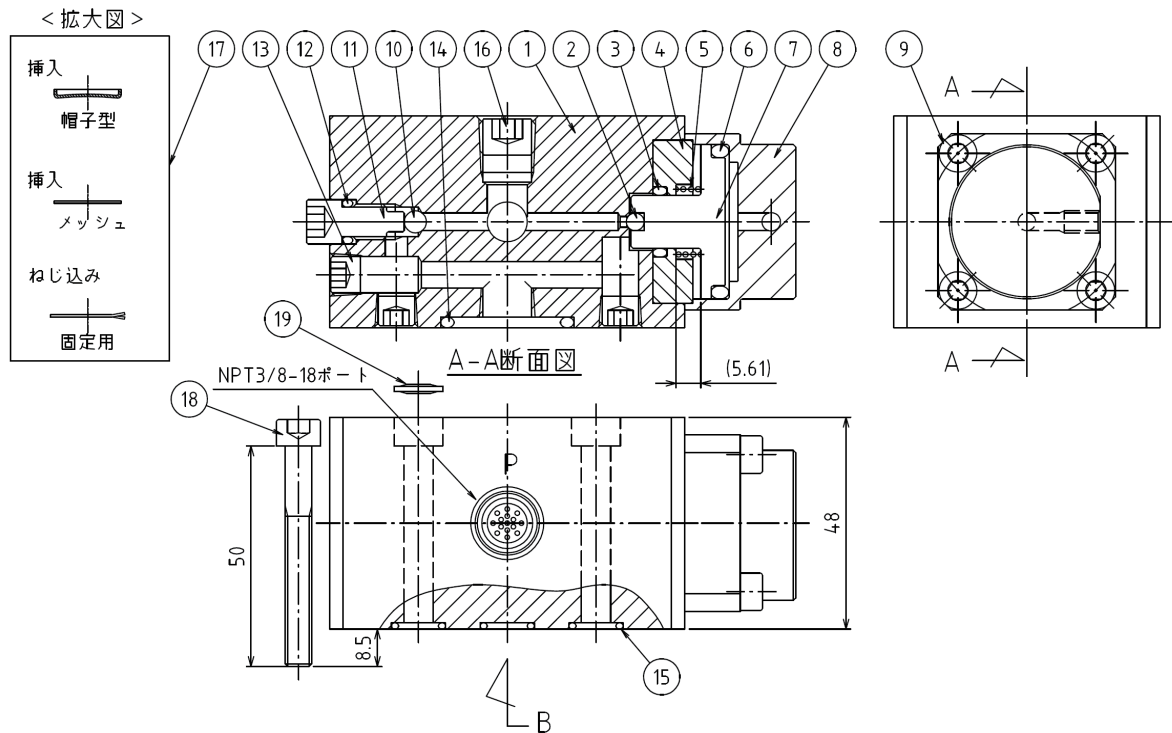
## 14.2. エアポンプサブアッシー



### ▽ エアポンプサブアッシー部品リスト

品番	品名	エアポンプサブアッシー型式			数量
		AH714E-900	AH716E-900	AH724E-900	
1	エアポンプ本体	AH714E	AH716E	AH724E	1
2	ポンプ取付けフランジ		PAH7-FL1		1
3	六角穴付ボルト		CB8-12		4
4	シールワッシャー		W-8S1		4
5	Oリング		1A P10		4
6	低頭六角穴付ボルト		CBS8-20		4
7	Oリング		1AG75		1
8	ワンタッチ継手		MSCNL16-4		1
9	インテークチューブ		DC9601268		1
10	インテークフィルタ		DC9178118		1
11	型式ラベル		CT2667.026P		1

### 14.3. エアオペレート弁部品リスト (PA07D 用搭載弁)



#### ▽ エアオペレート弁部品表

品番	品名	型式	数量
		APV-70 (PA07D 用搭載弁)	
1	パイロットバルブボディ	APV-70-001	1
2	精密級真円球 (4mm)	BLMJ4	1
3※	Oリング	1A P12	1
4	ガイドブッシュ	APV-70-003	1
5	スプリング	APV-70-006	1
6※	Oリング	1A G30	1
7	パイロットピストン	APV-70-002	1
8	ピストンカバー	APV-70-004	1
9	キャップボルト	SCB5-20	4
10	精密級真円球 (5mm)	BLMJ5	1
11	エア抜きプラグ	APV-70-005	1
12※	Oリング	1A P7	1
13	テーパプラグ	MSWT1	3
14※	Oリング	1A G25	1
15※	Oリング	1A P9	5
16	テーパプラグ	MSWT2	1
17	フィルタキット	HFC1/4F	1
18	六角穴付ボルト	CBM6-50	4
19	シールワッシャー	W-6S1	4

※ 印付がパッキンキット N.o. APV-70K に含まれています。パッキンキットはキットでしか供給できません。

## 15. 油圧作動油リスト

純正作動油は油圧機器の性能を十分に発揮させるだけでなく、機器の部品を保護する役割も果たします。(パラフィン系基油、色相青色)

### ▽ エナパック純正作動油

品番	油量
HF-100	約1ℓ
HF-101	約4ℓ
※HF-102	約19ℓ

※HF-102は約9.5ℓ×2本セットです。

### ▽ 市販オイルの推奨品 ISO規格 VG32相当品 耐摩耗性油圧作動油（鉱物性作動油）

昭和シェル石油	JX日鉱 日石エネルギー	コスモ石油	出光興産	エクソンモービル ジャパングループ
テラスオイルC 32	スーパーハイランド SE32	コスモハイドロ AW32	ダフニースーパー ハイドロA32	モービルDTE オイルライト32

### 注意

表に記載されているものの中には、海外で入手困難なものもありますので、海外で使用される場合は、各メーカーにお問い合わせ下さい。

### ▽ 作動油の特性と一般シール材の適合性(参考資料)

形状	作動油種類					
	石油系作動油	O/W エマルジョン	W/O エマルジョン	水・グリコール	リン酸 エステル	脂肪酸 エステル
比重	0.86~0.92	1.0	0.92~4	1.04~1.1	1.13~1.3	0.900
粘度(40°Cmm <sup>2</sup> /s)	小~非常に大	小	小	小~大	小~大	中
粘度指数	70~110	非常に高い	高い (130~170)	非常に高い (140~170)	低~高 (30~180)	高い
蒸気圧	小	大	大	大	小	小
防錆防質	優	可	良	良	可~良	良
不燃性	燃	不燃	難燃	難燃	難燃	難燃
鉱油との混合	補充可	不可	可	3%	3%	可
普通塗料耐性	○	○	○	△	×	フェノール 樹脂塗料不可
アルミニウムへの使用	○	×	△	△	△	○
亜鉛メッキ	○	×	×	×	○	○
クロムメッキ	○	×	×	×	○	○
引火点	222°C	なし	なし	なし	266°C~270°C	252°C~266°C
シール材	ニトリル	○	○	○	×	○
	バイトン	○	○	○	○	○
	ウレタン	○	×	×	×	○
	シリコン	○	△	△	○	△



## 16. 保証

### ①保証の範囲

保証の範囲は日本国内で購入され、日本国内で使用した場合に限ります。

### ②保証期間

ご購入日より1年間

### ③保証事項

通常のご使用で当社の責任に起因する材料、製造上の欠陥が上記保証期間内に発生した場合は、出張修理には対応しておりませんので、商品を弊社に戻して頂いて調査確認後に、無償修理または新品と交換を致します。原則的に調査報告書もお受け致しておりません。また、欠陥や故障に付随して発生する二次的損害および製品の取外し、取付けに関するなどの附帯費用に関して、当社は一切の保証および責任を負いませんのでご了承ください。

### ④保証適用除外事項

- a. 製品の誤った選定、誤ったシステムの下で生じた事故、それに伴う他の損害が発生した場合。
- b. 当社に相談了解なく変更や、改造された場合。
- c. 過酷な使用による消耗部品の損傷や磨耗による場合。
- d. 当社製品が、装置や設備等に組み込まれた事故に対する損害。
- e. 当社製品の故障によって誘発される損害。
- f. 自然災害による損害。

### ⑤特記事項

- a. 海外で購入された場合は有償修理になります。
- b. カタログ標準品を輸出された場合は、海外の当社グループ会社が有償修理致します。
- c. 特注品を輸出する場合は、事前にアフターサービスについての契約がされていないと、現地修理は受け付けないことがあります。

# Enerpac Worldwide Locations

## Australia and New Zealand

Actuant Australia Ltd.  
Tel: +61 297 438 988 – Fax: +61 297 438 648

## Brazil

Power Packer do Brasil Ltda.  
Tel: +55 11 5687 2211 – Fax: +55 11 5686 5583  
Toll Free: 0800 891 5770

## China

Actuant (China) Industries Co., Ltd.  
Toll Free: +86 400 885 0369  
Tel: +86 0512 5328 7500 – Fax: +86 0512 5335 9690

## France, Switzerland, North Africa and French speaking African countries

ENERPAC  
**Une division d' ACTUANT France S.A.S.**  
Tel: +33 1 60 13 68 68 – Fax: +33 1 69 20 37 50

## Germany and Austria

ENERPAC GmbH  
Tel: +49 211 471 490 – Fax: +49 211 471 49 28

## India

**Enerpac Hydraulics (India) Pvt.Ltd.**  
**Tel: +91 80 3928 9000**

## Italy

ENERPAC S.p.A.  
Tel: +39 02 4861 111 – Fax: +39 02 4860 1288

## Japan

**Enerpac Co. ,Ltd**  
Tel: +81 48 662 4911 – Fax: +81 48 662 4955

## Middle East, Egypt and Libya

ENERPAC Middle East FZE  
**Tel: +971 4 8872686 - Fax: +971 4 8872687**

## Russia

Rep. office Enerpac  
Tel: +7 495 98090 91 – Fax: +7 495 98090 92

## Southeast Asia, Hong Kong and Taiwan

Actuant Asia Pte Ltd.  
**Tel: +65 68 63 0611 - Fax: +65 64 84 5669**  
**Toll Free: +1800 363 7722**

## South Korea

Actuant Korea Ltd.  
Tel: +82 31 434 4506 – Fax: +82 31 434 4507

## Spain and Portugal

ENERPAC SPAIN, S.L.  
Tel: +34 91 884 86 06 – Fax: +34 91 884 86 11

## Sweden, Denmark, Norway, Finland and Iceland

Enerpac Scandinavia AB  
**Tel: +46 (0) 771 415000**

## The Netherlands, Belgium, Luxembourg, Central and Eastern Europe, Baltic States, Greece, Turkey and CIS countries

ENERPAC B.V.  
Tel: +31 318 535 911 – Fax: +31 318 535 848

## Enerpac Integrated Solutions B.V.

Tel: +31 74 242 20 45 – Fax: +31 74 243 03 38

## South Africa and other English speaking African countries

ENERPAC Africa (PTY) Ltd.  
**Tel: 0027 (0) 12 940 0656**

## United Kingdom and Ireland

ENERPAC Ltd.  
**Tel: +44 1670 5016 50 - Fax: +44 1670 5016 51**

## USA, Latin America and Caribbean

ENERPAC  
Tel: +1 262 293 1600 – Fax: +1 262 293 7036

User inquiries: +1 800 433 2766  
Distributor inquiries/orders:  
Tel: +1 800 558 0530 – Fax: +1 800 628 0490

e-mail: [info@enerpac.com](mailto:info@enerpac.com)  
internet: [www.enerpac.com](http://www.enerpac.com)

**POWERFUL SOLUTIONS. GLOBAL FORCE.**

**Japan Web サイト**

## エナパック株式会社

### カスタマーサービス部

埼玉県さいたま市北区别所町85-7 〒331-0821  
TEL.048-662-4911(代表) FAX.048-662-4955  
E-Mailアドレス : [info@enerpac.co.jp](mailto:info@enerpac.co.jp)

<http://www.enerpac.co.jp>

お問い合わせ・ご用命は

●この取扱説明書の内容は、予告なく変更されることがありますのでご了承ください。